

## 大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	九州大学
整理番号	Ⅱ-4
事 業 名	スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
(コメント) 本事業は、法的思考能力を学ぶことで普遍的な原則を尊重するとともに、ASEAN 諸国の固有性・多様性を理解し、我が国と ASEAN 諸国を協調的発展に導く人材を育成することを目的に実施された事業である。  事業展開では、ASEAN 諸国の多様性の理解やリーガルマインドを法実務の体験によって学修する実践的なプログラムが行われており、高く評価できる。学生の派遣・受入も渡航前後を通してきめ細かなサポート体制が敷かれ、交流学生数については目標を達成している。今後は単位取得を伴う受入学生数の更なる拡大を期待する。また、日本人学生の外国語力については、派遣後の TOEFL のスコアが全体的に向上しており、大学の真摯な取組による効果であると言える。このほか、海外有識者を含めた外部評価委員会や、九州大学と各相手大学の担当者からなるコーディネーションミーティングを定期的に行うことでプログラムの改善・充実に取り組んでおり、単位互換の仕組みの確立やダブル・ディグリー制度の整備など、質の保証を伴う相互交流が実施されている。  このような取組の中で、九州大学の提案によってフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学において共同講義とフィールドトリップを組み合わせた新しいプログラムの開発への道筋を付けるなど、相手大学のニーズを満たすだけでなく、我が国の大学教育の新たな展開がなされた結果として大いに評価できる。長期的展望に立脚した戦略と今後の進展に期待する。  一方で、SEND プログラムの目的である双方の言語と文化の学修による異文化理解に偏りが見受けられることから、日本人学生の異文化理解の深化に向け取り組んでいくことが望まれる。  最後に、我が国と ASEAN 地域が協調的に発展するよう導いていく人材の育成は必要不可欠であることから、教育の質を確保した大学のグローバル展開に向け、更なる事業の拡大・発展が期待される。	